

子どもたちと日本一周

～サービスマーケティング活動で自分を見つめなおす～

活動先 山口県美郷の丘

1. はじめに

私は、大学生生活を送る中で今の自分のままでいいのかという疑問を持った。大学に入ってこれと言って打ち込めるものもなく、人より社会に出て活動するというような経験が少ないと感じて自信をもてなかったり、自分は将来どのような道に進みたいのかわからなくなったり・・・と非常に悩む時期があった。そして、今の自分は何をしたらいいのか、自分は何を求めているのか全くわからない状態になっていた。そんなとき、サークルの先輩で同じ教職の道を進んでいる先輩に「子どもたちと船で日本一周してみないか？」と言われたことがきっかけで私の山口県での活動が始まった。

2. 活動場所の紹介

活動先は主に山口県にある美郷の丘である。学生時代から青年活動をしてきた方が竹やぶを切り開いて作られたキャンプ場で、自然豊かな場所である。土から少し顔を出している竹の根やまっすぐに伸びた竹は自然の強さと広さを感じさせてくれる。夜の星空と月明かりはまるで、プラネタリウムにいるような気分になるほどの美しさだ。また、キャンプ場内には、ドッジボールや草野球ができるグラウンドや、バドミントンコート、工作場などが手作りで作られている。近くの川では川魚が泳いでおり、魚釣りもできる。美郷の丘では、山口県内の大学生・大学院生が中心となって毎週土曜日と日曜日に土曜日曜学校を開いている。そして、この土曜日曜学校の特別企画として日本一周なども行っている。

3. 活動目的

子どもたちが自然の中での体験や子ども同士の遊びを通じて心の豊かさを育むこと。また、「山口県少年少女の船」の日本一周の旅では、未来を担う少年少女が規律・協調・奉仕を基調とした集団生活の中で、お互いの交歓と自然の尊厳さ美しさを、身をもって体験し、将来に向けて大きな夢と希望を抱くことを目的とする。

社会に目を向け、現在の家族・子どもが抱える問題を社会問題として捉え、これから社会に出ていく大学生の私たちに何ができるか、何をすべきかを追究しながら活動することを目標とした。

4. 活動内容

現在までに行った活動の内容については以下の通りである。

- ・3月26日～4月5日 「山口県少年少女の船」に参加、子どもたちと船で日本を一周
- ・5月3、4、5、日 「GW 特別企画」に参加
- ・8月26、27、28、29、30日 「夏休み総まとめキャンプ」に参加
- ・10月9、10、11日 「秋を楽しむつどい」に参加

これらの活動の中から、「山口県少年少女の船」での日本一周の旅と、「夏休み総まとめキャンプ」について詳しく述べる。

1)「山口県少年少女の船」での日本一周の旅

3月27日～4月5日まで9泊10日の船の旅に参加した。先輩に「子どもたちと日本一周してみないか?」と、紹介された活動である。この船の旅に参加しようと思ったきっかけは、大学生の今だからできるいろんなことを経験して、その経験を自信につなげたい!子どもと接する経験をもっとしたい!という思いがあったからである。船に乗って日本を一周するということであるから、費用も高額であった。また、活動日が大学の新年度のオリエンテーションと重なり、大学側からは欠席扱いにするとされた。科目や1年間の流れ、科目登録の仕方などの情報を得られないということは自己責任であるが、科目の選択権が失われるのは残念であった。このような問題もあり、せつかく先輩から良い情報を与えて頂いたのに諦めようかと散々悩んだ。しかし、「お金に変えられないほどの経験ができて行く価値のある活動だよ」と言われ、一か八かで思い切ってやってみよう!と参加することを決心した。

小学生から中学生まで約100人、指導員として大学生・大学院生が28人、スタッフが3人参加した。また、子どもの安全が第一であるため、看護師さんが1人同行した。子どもたちは船での集団生活を通して、仲間と協力することや規律を守ること、自分を出すこと、夢を膨らませることなどを身をもって体験し、学ぶ。スケジュールや行動の仕方、過ごし方など指導員が考えを出し合いながら計画していく。子どもの抱える様々な問題や課題を指導員全員で共有し、解決に向けて提案・実践する。そして、子どもだけでなく、指導員自身もその実践から学び、自己を形成していく一つの手段にもなる。

子どもたちにとって「日本を一周する」ということは大きなことである。船の旅は楽しいことばかりではなく、なかなか友達ができなかつたり、つい集団生活の決まりを破ってしまつたり、集団生活の流れについていけなかつたり、人前で話せなかつたり、船酔いで嘔吐してしまつたり…と辛いことや苦しいことにたくさんぶつかる時もあるけれど、船の旅が成功することで達成感が得られ、子どもたち一人ひとりが自分の可能性を発見し、さらにその可能性を大きくすることができたと考える。

2)「夏休み総まとめキャンプ」

8月26日～30日に行われた「土曜日曜学校特別企画 夏休み総まとめキャンプ」に参加した。3月の日本一周に参加し、久しぶりに一生懸命に行動したことが私にとって非常に刺激的であった。また、子どもとの向き合い方や指導の仕方がまだまだ明確にならず、もっと活動に参加して学び、経験を積みながらそれを自分の自信につなげたいと思ったため再び山口県へ行って参加した。このキャンプは、夏休み中のだらだらした生活を規則正しいものに戻し、夏休みの宿題も完全に仕上げることを目的としている。小学生・幼児約70人、大学生・大学院約10人が参加した。

キャンプでは、朝と夜に集ってキャンプでの目標や、将来の夢などを発表する時間を設けているが、少数ではあるがなかなか人前で発表できない子どももいて、そういった子どもたちに勇気を与えることや、日中騒いでいる子がなぜ発表の場になると前に出ることができないのかなどを考え、それぞれが抱えている課題を理解し、一緒になって解決していく場面が多かった。子どもたちが自主的に積極的に前に出て自己表現するという力を持つこと、その力を引き出すことが重要であって、無理やり発表させても子どもたちの成長のためにならないとわかった。

5. 活動における問題点と課題

山口県での活動のスタートとなった「山口県少年少女の船」に参加するにあたって、先に述べたように学校側の理解が充分でなかったように感じる。希望を持って活動しようとしている者にとって学校側の対応は少し寂しく感じた。自分を変えたい！など希望をもち、この活動に非常に興味がある学生が何人かいるが学校側がこのような対応では、行動の環境が整っていなければせっかくの成長が阻害されてしまうことになり、やる気や希望がなくなってしまうと考える。この土曜日曜学校を含む山口県での私の活動は、大学生・大学院生が主体的になり、リーダーシップを発揮している。また、子どもたちの様々な課題に対して議論し合い、提案するなどの点が、ゼミで学んでいるサービスマーケティングに当てはまると気付いた。サービスマーケティングと位置付けることで、ぜひ大学側の理解を得たい。そのために、私が行った活動を報告し、成果を上げることが課題ではないかと考える。

また、土曜日曜学校で子どもたちと関わる中で、母子・父子家庭の増加と、子どもたちのひきこもり化が見えてきた。ゲームやインターネットの普及に伴って、子どもたちが屋外よりも室内でこもって遊ぶ時間が多いということがわかった。また、ゲームでも大人数で行うものはもちろんであるが、一人で行うものも多くあり、一人で部屋にこもって遊ぶという現状もあるようだ。ゲームが全て悪いというわけではないが、ゲームによってコミュニケーション能力が低下することもあると考える。このように大半の遊びがゲームになってしまっている子どもたちが美郷の丘で自然に触れながら自由に遊ぶという環境は非常に大事なものであり、この環境を守り続け、より一層良い環境・居場所・学びの場・発見の場・自己形成の場をつくるのが課題の一つであると考えている。

6. 活動を通じた学びと今後の抱負

山口県での活動を通して、自分はやはり子どもに携わる道に進みたいということがわかった。また、そのために子どもと本気で向き合う経験をたくさん作りたいと思う。子どもに嫌われたくないという思いがあり、なれ合いになりがちであるが、子どもの成長と発達を真剣に考え、関わるためには、なれ合いの関係ではなく本気で向き合えるような関係をつくる必要があると考える。現場に出てすぐに、子どもと本気で向き合えるような関係をつくることはできないと考えるので、社会に出る直前の学生の間子どもと関わる機会を増やし、経験を積んだ上で現場に出たいと思う。また、経験を積むことでさまざまな場面に遭遇でき、考えを深めることができるのではないかと考える。

また、子どもの疑問に少しでも答えられたり、これから社会に出ていく者として、もっと社会に目を向け、自分には何ができるのか、何をすべきかなど自分の考えをもつことも必要であると感じた。そのためにも、テレビや新聞などからの情報だけでなく、実際の現場から身をもって学びたいと考えている。様々な分野に対して積極的に取り組み、いろんなことを経験することは大学生の特権でもあると考える。そして、その経験を通して自己を形成していくことを大学生はすべきであると考えている。私自身、山口県での活動に思い切って挑戦してみた結果、いろんなことを考えるきっかけとなり、自分自身について改めて考えなおすことができた。一か八かで参加して本当に良かったと感じている。

今後は、2011年の3月28日から4月5日に行われる「第37回山口県少年少女の船」に参加する予定であるし、その後も活動を続けたいと考えている。

7. 次年度活動する学生へ

「百聞は一見に如かず」で、実際に自分の目で、手で、耳で、心で体験したり、感じたりすることは非常に大切である。特にサービスマーケティング活動は、ボランティアの要素に加えて「リーダーシップの発揮・育成」「考えたことを次につなげる」など、単なる“お世話”ではない活動であるということが魅力であるし、学生の力の見せ所でもあると考える。しかし、何か行動したいと思っても、どこに行けばいいのか、何をすればいいのかわからないこともあるだろうと思う。私自身そうであったので、行動したいのにできないという人の気持ちは非常にわかる。わからないからといって諦めるのではなく、できるだけいろんな情報を入手し、得た情報を無駄にしないことが大切であると考えます。サービスマーケティング活動を通して、ぜひ大学生活や今の自分を見つめなおし、自己を形成してほしい。

また、この機会に私の活動にも是非参加してみてくださいと思う。

